

(カ) 歯と口腔の健康

歯と口腔の健康は、全身の健康の保持増進に寄与し、さらに口から食べる喜びや楽しみ等を通じ、精神的健康や社会的な健康にも大きく影響することから、歯と口腔の健康づくりを進める必要があります。

<県の現状> ※健康ちば21（第2次）の最終評価から抜粋

「60歳代における咀嚼良好者の増加」

策定時よりも減少し、目標値に達していません。

計画策定時 (H25)	中間評価(H29)	最終評価 (R3)	第2次目標値
70.1%	69.6%	69.3%	80.0%

(データソース：生活習慣に関するアンケート調査)

「80歳以上で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加」

策定時よりも増加していますが、目標値に達していません。

計画策定時 (H23)	中間評価(H29)	最終評価 (R3)	第2次目標値
23.8%	33.3%	51.6%	50.0%

(データソース：生活習慣に関するアンケート調査)

「進行した歯周炎を有する者の割合の減少」

40歳代、60歳代ともに増加しており、目標値に達していません。

	計画策定時 (H23)	中間評価 (H28)	最終評価 (R3)	第2次目標値
40歳代	41.5%	45.0%	47.9%	25.0%
60歳代	50.2%	53.7%	55.0%	45.0%

(データソース：成人歯科健康診査)

「3歳児でむし歯のない者の割合が80%以上である市町村数の増加」

策定時よりも増加していますが、目標値に達していません。

計画策定時 (H23)	中間評価(H28)	最終評価 (R3)	第2次目標値
13市町村	36市町村	51市町村	54市町村

(データソース：3歳児歯科健康診査)

「過去1年間に歯科健診を受診した者の割合」
増加していますが、目標値に達していません。

計画策定時 (H23)	中間評価(H29)	最終評価 (R3)	第2次目標値
39.7%	56.5%	57.0%	65.0%

(データソース：生活習慣に関するアンケート調査)

<県の課題>

むし歯や歯周病等の定期的な歯科健診を含めた予防対策に加え、オーラルフレイル（口腔機能の低下）対策等、生涯を通じた歯・口腔の健康づくりに、関係機関と連携をしながら取り組む必要があります。

<県が実施する具体的施策・取組の方向性>

「千葉県歯・口腔保健計画」と連携して推進します。

1 歯・口腔の健康づくりに関する知識の普及啓発

- 歯科口腔に関する正しい情報について、80歳で20本以上の歯を保とうという「8020（ハチマル・ニイマル）運動」や「歯と口の健康週間」等を活用して周知啓発していきます。
- 県民の歯・口腔の健康意識の向上を図るため、生活習慣病（NCDs）の予防や全身と口腔の健康の関係などについて、市町村、関係団体、企業等と連携して、地域や職場において、歯周病と糖尿病などの全身の疾患との関連性やオーラルフレイル予防などに関する正しい知識の普及啓発を図ります。
- 住み慣れた家庭や地域で生活を続けていくために、かかりつけ歯科医を持ち、定期的な歯科健診の受診や歯科保健指導を受けられるよう啓発していきます。
- 80歳になっても肉類をはじめとした良質なたんぱく質を含む食品を摂取することを推奨し、介護を必要としない高齢者を増やしていくための「8029（ハチマル・ニク）運動」を普及啓発していきます。

2 市町村その他関係者の連携体制の構築

- 地域特性を踏まえ、市町村と連携し、学校保健・産業保健も含めた幅広い連携を推進します。
- 市町村等が実施するフッ化物応用によるむし歯予防等の事業実施に際し、効率的・効果的に行われるよう情報提供や技術的指導を行います。
- 障害のある方や介護を必要とする方も、地域で安心して歯科相談や治療を受けられる「かかりつけ歯科医」の体制を整備するため、歯科医師会等の関係機関との連携を図ります。








3 歯・口腔の健康づくりの業務に携わる者の確保・資質の向上

- 関係団体等と連携して、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、教育関係者、保健医療福祉関係者等に対して、最新の科学的知見に基づく研修会を実施します。
- 市町村の歯科衛生士が歯・口腔保健サービスに果たす役割は大きいことから、市町村等歯科衛生士の配置を働きかけるとともに、研修会の実施等により資質の向上を図ります。

<目標>

No	目標項目	現状値	目標値 (R14年度)
1	40歳以上における歯周炎を有する者の割合の減少	53.6% (R4年度)	40%以下 (R11年度)
2	50歳以上における咀嚼良好者の増加	70.5% (R3年度)	77%以上 (R11年度)
3	過去1年間に歯科健診を受けている者の割合の増加	57.0% (R3年度)	79%以上 (R11年度)
4	80歳以上で20本以上を有する者の割合の増加	51.6% (R3年度)	73%以上 (R11年度)
5	40歳以上における自分の歯が19歯以下の者の割合の減少	19.3% (R3年度)	4%以下 (R11年度)
6	3歳児でおし歯のない者の割合が90%以上である市町村数の増加	22市町村 (R4年度)	44市町村 (R11年度)

歯・口腔の健康づくりに向けた県民の行動目標

	妊産婦期	乳幼児期	少年期	青年期	中年期・高齢期	歯科医療を受けることに困難がある人等
		0～5歳	6～15歳	16～29歳 30～44歳	45～64歳・65歳以上	
						
	妊婦歯科健診	乳幼児歯科健診	園、学校歯科健診	歯周病検診	後期高齢者歯科口腔健康診査	
県民の行動目標※	・市町村で実施している妊婦歯科健診などを活用し、定期的に歯科健診を受診します。	・乳歯がむし歯にならないよう、正しい歯みがき習慣を身につけます。	・乳歯や永久歯がむし歯にならないよう、また歯肉炎を予防するために、正しい歯みがき習慣を身につけます。	・市町村で実施している成人歯科健診(歯周病検診)などを活用し、定期的に歯科健診を受診します。	・口の機能(食物を口に取り込み、かんで飲み込むことなど)の維持、向上のために必要な知識を身につけ、実践します。	・家庭や施設などにおいて、歯間部清掃用具などを用いたセルフケアを行います。

※これは一例であり、お一人お一人が歯・口腔の健康づくりに向け、目標を設定するよう努めましょう。



かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受診しましょう。